

子どもの本

研究会



【私の一冊】『二番目の悪者』 林木林／作 庄野ナホコ／絵（小さい書房）

絵本は、子供だけのものではない。

大人も自分の読みたい絵本を手に取り、楽しんだほうがいい。五十歳を過ぎ、年を重ねるにつれて、わたしはそんな思いを強くしている。加齢とともに足腰が弱るよう、心の筋肉も衰えてしまうと感じるからだ。世間の波にもまれるうちに、忖度や協調をおぼえ、意に沿わないものも受け入れざるを得なくなる。他者への寛容を披露する裏側で、本心に蓋をすることも少なくない。そうした処世術（言い換えれば、コミュニケーション能力）を身に着けることは生きていくうえで大切だし、否定するつもりもないけれど、ふとしたときに「疲れたなあ」と感じることはある。わたしはそんな自分を見つけるたびに、絵本や児童書を読む。童心に返るという言葉のとおり、素直な気持ちになつて、心に栄養を与えるのだ。「疲れた大人」の方にはおすすめしたい。なんだつていい。子供の頃に読んだものを再読してもいいし、新しい一冊を探してもいい。どちらかというとわたしは後者の、初めて出会う物語のほうがワクワクする。「ワクワク」は、大人にこそ必要だ。

『二番目の悪者』は、最近出会った絵本である。

去年の9月頃だっただろうか。真夏の過酷な撮影を終えたばかりだった。夫の故郷である山鹿に移住して一年も経たないうちに映画を撮ったわたしは、本業の脚本だけでなく、慣れない監督と編集まで担当うこととなり、右往左往していた。タイトルの「二番目」について深く考えさせられた。

噂はうわさでしかない。嘘か真実か、自分で確かめなければわからない。このシンプルな、ともすれば忘れてしまいがちな道理にはつとめた。東京からやつてきたよそ者のわたしが、地元の映画を作るにはかなりのハードルがあり、不案内な土地で、耳にした話を鶴呑みにすることもしばしばだった。「二番目」にならないよう自戒し、誰かに物語を届け、伝える側の立場でもあると襟を正した。「必要なときに、必要な物語に出会う。」これも「ワクワク」のひとつである。

あなたにもきっと、そんな物語があるはずだ。

木庭撫子

（映画『骨なし灯籠』脚本・監督）

2023年度活動の「案内(会員募集)

(2023年4月～2024年3月)

くださいますようお願い申し上げます。

1 読書推進事業

①開講講座

・日時：4月26日(水) 10時～12時

会場：熊本市立図書館集会室

今年度の講座と研究会活動を紹介します。

会員以外の方もご参加いただけます。

②40周年記念公開講座

日時：9月10日(日) 10時～12時

会場：くまもと県民交流館パレア

講師：さくまゆみこさん(翻訳家)

さくまさんは翻訳のかたわら日本ペンクラブ

「子どもの本」委員、日本国際児童図書評議会(JBBY)会長をつとめる。翻訳作品は絵

本からヤングアダルト小説、研究書まで250点を超える。アフリカ人作家、アフリカ系アメリカ人作家の作品も多い。アフリカの子どもに本

を届ける活動やアフリカの文化や子どものことを日本の子どもたちに伝える活動も長年続けて

いる。代表的な翻訳作品は『もうひとつアフリカの八つのお話』(福音館書店)など。

ブログ「バオバブの木と星のうた」などでの情

報発信にも注力。

③企画講座

会場は熊本市立図書館(予定)

・5月17日(水) 10時～12時

・6月21日(水) 10時～12時

さくまゆみこさんの作品を読む(児童書)

・7月19日(水) 10時～12時

子どもの本から戦争を考える

・8月6日(日) 10時～12時

お話の小道具製作

同13時～15時

製作した小道具を使っての実演

・9月20日(水) 10時～12時

田口祐子さんのおはなし会

・10月18日(水) 10時～12時

子どもの本とは?①大人の本と比較して

・11月15日(水) 10時～12時

絵本の動物が服を纏うこと

・12月20日(水) 10時～12時

子どもの本とは?②大人の本と比較して

・2024年1月17日(水) 10時～12時

昔話はおもしろい!

・2月21日(水) 10時～12時

幼い子と楽しむ本

2023年度におきましても会員としてぜひ
ご参加いただきますとともに、お仲間をお誘い

報発信にも注力。

④開講講座

・3月13日(水) 10時～12時

今年度を振り返って。



⑤研究会活動検討会(オンライン)

研究会で実施する具体的活動についての意見
交換、新規活動の企画をいたします。

研究会会員の紹介があれば会員以外の方でも
参加できます。(要事前登録)。

第1回 4月 9日 (日) 10時～12時

第2回 6月 11日 (日) 10時～12時

第3回 8月 20日 (日) 10時～12時

第4回 10月 8日 (日) 10時～12時

第5回 12月 10日 (日) 10時～12時

第6回 2月 11日 (日) 10時～12時

⑥びわの木文庫活動

月1回程度の頻度でオープンし、蔵書の貸し
出し、読書相談等を行います。



2 子どもの健全育成事業

(ボランティア活動)

5年会費(2023年4月～2024年3月)

・正会員(個人) .. 4000円
・賛助会員(団体) .. 10000円

・寄付での支援もお待ちしております。

熊本県立図書館、熊本県立図書館、

熊本大学教育学部附属支援学校(小・中学部)

その他小学校、児童館等



3 出版・販売事業(会報・ホームページ)

①会報の発行

5月20日、7月22日、9月16日、11月18

日、2024年1月20日、3月23日の6回発行し、ホームページ上で公開します。郵送希望

の会員の方には郵送もいたします。

お話を関連した各話題や絵本を取り上げ、

グリム童話の魅力に触れる講座です。

⑦子どもと大人の読書会(オンライン)(4回)

小中学生と大人(会員)が同じ本を読んで感想
を語り合います。

4 ふるさとくまもと応援寄附金(ふるさと
納税)制度の活用

寄付の使い道として当研究会の活動支援を選
択していただけます(11ページ参照)

②ホームページで情報提供

会報及び個別活動に関する情報をタイムリー
に掲載します。会員専用の「会員の広場」では、
各活動のより詳細な記録を提供します。

(横田 真)

◆理事会開催報告

理事会を左記のとおり開催しました。

①日時：3月5日（日）11時～12時

②場所：研究会事務局＋オンライン

③参加者：横田理事長、森理事、鈴木理事、世良理事（欠席理事からは委任状を受領）

④議事概要

「定款の変更について」、「2022年活動状況

報告」、「2023年度活動計画案」を総会に付議する」ことを横田理事長より説明し、承認された。その他の相談事項についても意見交換が行われた。主要コメントは左記のとおり。

・定款の変更趣旨（理事の任期を理事選任総会の終了時までとする）は「了解した」。

・「子どもと大人の読書会」は双方が互いの視点を知る良い機会になっているとともに、参加児童・生徒とその親との本に関する対話も促進している。子どもの参加を増やしていきたい。

・次回総会は6月25日11時より開催の予定。
・ひわの木文庫の活用にあたっては、新しい本の整備も進めるべき。これまで本を読まなかつた子どもが年に一冊でも読むようになることを支援できれば素晴らしい。

（横田真）

◇講座報告

テーマ 昔話の形式について

（昔話とは）

☆昔話は、簡単、明瞭（シンプル、クリア）な話でなければならない。

（昔話の決まった形）

・会場 熊本市立図書館集会室

・日 時 1月18日（水）10時～12時

・参加者 7人

・レポーター 辻 由美

（お話を種類）

「昔話」は口承文芸であり、口伝えて伝承されてきた。時代、場所、人物は特定されないと

いう特徴を持つ。「伝説」は、時代、場所、人物を特定して語り継がれてきたものであり、

「神話」は神々が登場する民族の元を伝えるものである。「民話」ということばは、職後にで

きたことばで、昔話を文芸的（文学的）に作り直したもの（例：木下順一『夕鶴』、松谷みよ子『龍の子太郎』）。『童話』は完全なる創作物語（明治のころから）。グリム童話は、グリム兄弟が昔話を集めて少し手を加えているが、昔話の性質を8割程もっている。一方「おとぎ話」は、お話を種類ではなく、架空のお話のこと。昔、殿様やその子どもたちが寝つくまでに「おとぎ衆」という役目の者がお話をしてあげたことから「の」とばができる。

・語り口がある（繰り返し、同じ場面は同じことばで、など）

・結末句でおわる（どうとはれ、いやら）さかえた、「めんだ」「わんだ」「など）

※結末には主人公の幸せ（富の獲得、身の安全、結婚など）がある。

（日本の昔話）

・五大昔話

「桃太郎」「かちかわ」「さるかに合戦」「舌切り雀」「花咲か爺」

・三大太郎

「桃太郎」「浦島太郎」「金太郎」

・七大昔話

「桃太郎」「かちかわ」「さるかに合戦」「舌切り雀」「花咲か爺」「浦島太郎」「一寸法師」

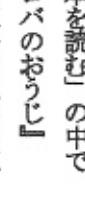
(しかし、「桃太郎」「かちかち山」「さるかに合戦」「舌切り雀」が侵略的だとして、戦後、金田一春彦氏が自分を犠牲にしながら他人を思いやる昔話を選出した)



「鷺の恩返し」「笠地藏」「わらしへ長者」「炭焼長者」「花咲か爺」「浦島太郎」「一寸法師」

（注さんと昔話）
昔話を聞いたり語つたりする
研究会に入り、昔話を聞いたり語つたりする
ようになって、幼い頃、祖母の昔話を聞いていた」とが蘇ってきた。祖母は明治生まれで熊本県菊池市在住だった。弟やいとこ達と一緒に遊んだわらべうた。

（ほるぶ出版）で、ロベだった王子が人間の王子に戻るときの表現の「(むねのボタンは)ひとりではずれ…ロベの皮がするりとすべりおちて…」に関する解説について、堀畑さんからお話をあった。



究会国語部会編、日本標準）のページをめぐりながら記憶をたどった。

◎朗読「ほばそけわるかい」『日本の民話2』より

□有久さんより
「日本昔話事典」（稻田浩「他編、弘文堂）より、「昔話の型」「昔話の機能」「昔話の形式」の紹介があった。

□堀畑さんより

前回の講座「文字の多い絵本を読む」の中で話題に上ったグリムの昔話『ロベのおうじ』

（以下、文責堀畑）この文章から、キリスト教普及前のヨーロッパ人の自然信仰の片鱗を窺うことができる。古代の人々は人間の運不運、病気、不作、災難、戦争などは全て外の世界（森、川、山、海など）からやってくると考えていた。実際、ヨーロッパには中世期まで人が狼に変身し冬の悪靈と戦い、農作を招き寄せる風習が残っていた。J・レーリッヒは「動物への変身は罰でも呪いでもなければ不思議なことでも厭わしい」とでもなかつたし、人間世界と動物世界は「同等な地位をもつものとして隣接していた」（メル

「おじさんとわらべうた」
昔話を聞いていたころ、菊池の祖母やいとこ
てんたら虫の乙姫は
ゆうやにあがつてなくいえは
じゅうじょもんがらもんがら
おしゃり」
おしゃり」
年ばゆうて
こりばひけ、
「すいすいすりこねばし」と同じあそび。友達
とは「すいすいすりこねばし」だったが、祖母
やいとこ達とは「いつぶくてつぶく」で遊んでいた。

熊本の昔話 CD『昔話かるさとへの旅・熊本』（KING RECORDS）より
小国の河津たねさんの語り「ほんさらや」「吉五の話・馬を買った話」

天草の上中万五郎さんの語り「海の物まね大
かし」（菊池市高齢者大学、青潮社）、『読みがたり 熊本のむかし話』（熊本県小学校教育研

「へんと現実」と述べる。この世界觀を背景

に、人間自ら動物に変身するというメルヘンが

生まれたと推察される。その後、キリスト教が
広まり人間中心主義が支配的になると、人間が

魔女の呪いによって動物に変身するというメル

ヘンに変化する。

まだ、この話は通過儀礼的な側面も持ち、困難を克服した時、ロバの皮はするりと落ちて人間に戻るという解釈も可能である。

(報告 木村一恵)

◇講座報告 テーマ 参加型の絵本を読む

・日 時 2月15日(水) 10時～12時

・会 場 熊本市立図書館集会室

・参加者 5人

・レポーター 倉岡寿雅子

「レポーター倉岡さんより」

参加型の絵本というテーマで一番に思い浮か

んだのが、『サルビルサ』(スズキコージ著、架空社)だった。支援学校で読んだとき、盛り上がり楽しかった。1人で読むより、2人で掛け

合いで読む方が面白い。ナンセンスな言葉で訳

が分からなければ、反戻を感じる。子どもたちは「ヤーツ」と声を上げていた。

『へんしんトンネル』(あきやまだだし作・繪

金の星社)は子どもたちと言葉の「変身」を楽しむ。絵本ではないが、谷川俊太郎の詩「わるくち」は、子どもたちから「もう1回!もう1回!」とリクエストがあり、何度も唱えるうち

に子どもたちも覚えて一緒に言い出す。「それほんとう?」(松岡早子著、長新太え、福音館書店)は、言葉遊びの物語をしっかりと聞いて、

最後に「それほんとう?」と参加者から言葉をもらいう。『「い」とばの「いば」』(和田誠さく・え瑞雲社)は、しりとりや回文など言葉遊びの絵

本。

参加型の絵本は、みんなで読んでわーっと盛り上がるのも楽しいが、実は1人でじっくり読んでも楽しい絵本だと思う。

《参加者が持ち寄った絵本》

『まるまるまるのほん』(エルヴェ・チュレ作、

谷川俊太郎訳 ポプラ社)

・『おおかみだあ!』(セドリック・ラマディエ文、ヴァンサン・ブルジョ繪、谷川俊太郎訳 ポ

・『いろいろいろのほん』(エルヴェ・チュレ作、谷川俊太郎訳 ポプラ社)

・『でじな』(十屋富士夫・作 福音館書店)

・『やさいのおなか』(きうちかづ・さく・え 福音館書店)

・『よかつたねネッドくん』(レミー・チャーリシブさく・やまとよし)・やく 偕成社)

・『ケーキになあれ!』(ふじむどのり)・さく BSL出版)

・『なぞなぞ』(安野光雅さく・え 福音館書店)

・『あしたのんきは はれ?くもり?あめ?』(野坂勇作さく 根本順吉・監修 福音館書店)

・『ねえ、どれがいい?』(ジョン・バー・ニンガムさく・まつかわまゆみ・やく 評論社)

・『あーといつてよ あー』(小野寺悦子ぶん、堀川理万子え 福音館書店)

・『でてーいミルクー!』(ジエニファー・A・エリクソンさく・オラ・アイタンヌ・うりだりさこ・やく 福音館書店)

《参加者より》

「参加型」という視点で絵本を見ることがな

かつたので、今回、その視点で絵本を選ぶのが面白かった/参加型というより体験型とも言うべき絵本がある/谷川俊太郎の言葉はひとひね

りあり面白い／谷川さんがテレビ番組で、当たり前の言葉ではなくボーンと飛びなさいというようなことをおっしゃっていた。そこに思いもよらない文章が生まれ、それが面白いのだと思う／魔法の言葉や繰り返しの言葉など、決まったフレーズを皆で唱えるのは楽しい／なぞなぞやクイズ的なものは子どもたちが張り切って答えてくれる／『ねえ、どれがいい?』は即答する子と同じく考える子がいる／『あーといつてよ、あー』は声を出して体験しながら科学を知る／改めて体験することの大切さを思った。

(報告 木村一恵)

◇報告 2022年度 閉講講座

・日 時 3月15日(水) 10時～12時

・会 場 熊本市立図書館集会室

・参加者 13人

クログラム

① ろうそくのうた

② 「うれしいひなまつり」(パネルシアター)

③『だいじょうぶ だいじょうぶ』(絵本 いとうひろし作・絵 講談社) 黒田真由美



(参加者より)

プログラムの内容が介護している高齢の母にも聞かせてあげたい歌や詩、絵本で人生を物語るような流れだった。高齢者向けにいい／オンラインのおはなし会を実践してみてコロナ禍で寂しい思いをしている子供たちがおはなし会を楽しみにしていることを切に感じた／生の声の大切さがオンラインを取り入れたことで再度気づかされた／リモートでおはなしをしているが、肉声で聴いてもらつ方が伝わる気がする／

④「くまさん」(詩 まどみちお作 人形使つて)

古上美智代

⑤『だいじょうぶ なるがきた』(絵本 島津和子 作 福音館書店)

辻由美

⑥ 菊島絃子さんの語りの世界



※ 赤ちゃんのためのわらべうたあそび
・「わかながはねて」(手遊び)・「ダイコンヅケ」
・「わいさいまめ」「ーん」「ーりやど」の「

※ 語り「雪女」(『松谷みよ子のほん』)

講談社より

※ 語り「ウリボとつあん」

(『世界むかし話3南欧』ほるぶ出版より)

アターの「うれしいひなまつり」で迎え、お雛様をバックにほっこりする絵本や詩が発表されました。

また、販賣でもいらっしゃる横浜市在住の菊島絃子さんに来館して頂き、菊島さんの語りの世界に赤ちゃん向けのわらべうたでいざなわれ、「雪女」の語りに恐さとせつなさで引き込まれました。そして最後に、楽しくて元気をもじれるお話「ウリボとつあん」を菊島さんが語られると、私たちもすっかりウリボとつあんに憧れでこんな人生が送れたら・と語り

地域での活動が社会のベースとなるよう活動を継続していきたい／おはなしの世界に引き込まれる雰囲気が好きで、この気持ちを子ども達にも伝えたい／自分達が今やつてあるお話し会やわらべうたを継続すべきだと再確認できた／人と会えることが嬉しいし、多くの人達とあたたかい世界に浸り元気になれた。



(報告 辻由美)

第3回「子どもと大人の読書会」

・日時 2月5日 10時～11時30分

・場所 オンライン会合（ZOOM）

・参加者 11人 小学3年3人／中学1年3人／大人5人（うち1人は子ども参加者の母）

・司会 舞津 晴子



今回の課題図書は、小学生の部が『トリシア先生と闇の貴公子！』（南房秀久著 学研教育出版）、中学生の部が『都会のトム＆ソーヤ①』（はやみねかおる著 講談社）。2冊とも小中学生に人気のあるシリーズで、子どもたちが選んでくれた。本の感想はもとより、子どもと大人の読み方の違い、執筆当時の時代背景などにも話は広がった。



【小学生の部】『トリシア先生と闇の貴公子！』

小学生A トリシアシリーズの8巻目だと知らずに読み始めたけれど、すごく面白くて気に入つた。とくに面白かったのは、トリシアたちが吸血鬼の情報を得ようとおばあ様に会いに行く場面。「忘れてもうた。でも、この家には吸血鬼について書かれた本がある」と言つてトリシアたちに居間や馬小屋などを片づけさせたあとで、

実はおばあ様のすぐそばにあつたと分かるところ。なんだよ～と吹き出してしまつた。



小B 私もそこが笑えた。それから最後にフィ



リイが吸血鬼のギイに「お兄様はお兄様です。きらいになれません」と言つて、「ころは、兄妹つ

ていいなと思った。吸血カボチャは、カボチャに小さな手足がついている姿を想像していたら、

挿絵では人間の男にカボチャ頭だったので似合わないと思つた。それからサクノス兄弟の三男

のエティエンヌが最初は何しようとなかつたのに、霜の巨人と戦うときに兄弟のなかでもいちばん強い感じでびっくりした。

小C 吸血鬼に血を吸われたベルがトリシアに助けられて目を開けたとき、「…おなかへつた。

おふろ入りたい、髪洗いたい…」と言つたのが面白かった。フイリイが吸血カボチャから少年を助けたところには感動した。

大人A イケメンのサクノス兄弟が好き。クー

ルだけ。優しい次男のリシュアンがお気に入りだつたが途中から三男のエティエンヌのファンになつた。「武器は平和を作らない」という先生

の教えにしたがつてレンがギイにトドメを刺さ

なかつたといつもよかつた。他の巻も読みたい。

大B 4巻読んだ。トリシアは目の前に傷つい

た人がいれば誰でも必死に助けようとする。吸血鬼や敵は助けないという発想がないところが

いい。小学生の感想を聞いて、おばあ様のボケぶりが受けるんだ、と勉強になった。

大C かっこいいサクノス兄弟たちの軽口や兄弟愛を楽しく読んだ。参考会長の「ものすごく弱くて、ものすごく役立たずことで評判の四男」というセリフが出たびに笑つた。

大D 1巻から読み始めて計6冊読んだ。トリシアやアンリ先生が何歳か気になつて読み進めたら、トリシアは11～12歳、アンリ先生は15～16歳。ソリスは17歳と分かつた。対象とする読者はトリシアと同年代だと思う。

大E 一人一人のキャラ設定が丁寧で、それが主人公になれそう。トリシアのキャラが特に濃いわけでもないのになぜ主人公なのだと不思議に思つていたが、1～7巻ではトリシアをメインにした話が多いという話を聞いて納得した。魔法や吸血鬼は大人にも子どもに受けれる題材だと思う。吸血鬼といえばアメリカ映画の「トワイライト」シリーズがお気に入りだ。

小A アーエスとショーンが吸血鬼の城に侵入する場面も面白かった。「…そり」のはずが爆音を立てて穴を空けるし、ロープを使って上る

とき、アーチスをおんぶしたショーンが「使わ
れやすいやつ」と言われるところなど面白い。

中学生A 戦いに負けたギイが吸血カボチャと
シーラに「お供する」と言わせ、「吸血鬼は孤独
だと言ったのは間違いだったようだ」というセ
リフに感動した。

△△△ X X △
大D かつては吸血鬼には悪いイメージがあつ
たが、漫画の『ボーの一族』あたりから変わっ
てきた。孤独や悲しみを描いている。この本に
なると仲間がいる設定となっている。

大B 吸血鬼の属性は「長寿」なので普通の人
と仲良くなつてもある時に別れがくる。その悲
しさをギイが話し、シーラたちも付き従う。『ボ
ーの一族』はびわの木文庫にあるから、興味の
ある人は、ぜひどうぞ。

大E 「トワイライト」の吸血鬼家族は人間の
血を吸わず、動物の血を吸つて人間との共存を
志向している。

小A 子どもと大人の見方は随分違つと思つた。

大人は読んでいろいろ考え、自分の好きな本や
映画と比べたりしている。

小B トリシア先生つて何歳かと疑問に思つて
いたので教えてもらひてよかつた。他の巻も読
んでみたい。○○○

小C 大人がいろんな感想を話してくれたので、
そうだからこそ面白かったと思い出せた。

大E 物語の面白さを素直に感じられる小学生
も素敵。大人はいろいろ比べがちかも。

△△△
大D 小学生の感想にとても興味があるので、
おばあ様のとぼけたところやアーチスとショーン
が大きな穴を空けたところに反応して面白が
つているのを聞けてすごく勉強になつた。

中B 主人公2人は中学2年生で僕らと1歳差
いなのに、内人君はどんな状況でも対応できる
し、創也君は頭がいい。そこがすごいと思って
ずっと読んでいる。

中A 表現が面白い。創也の雑学や内人のサバ

イバル術は現実の生活でも使えそう。おばあち
ゃんからもつた知識で危険な状況から脱出す
る内人が好き。面白いので15巻まで読んだ。中
B君は19巻まで読んでいる。

足かけ金物、お弁当を携帯食料と言う。サバイ
バル術も面白い。靴ひもとおにぎりで槍をつく
つてケーブルから脱出したのはすごい。それから
テレビ局のシーンで「ブラウン管の中でしか見
えない人が、目の前を歩いている」というセ
リフがあり、ブラウン管という言葉に馴染みが
ないので出版年を見たら2003年だった。

大人一同 ブラウン管を知らないか（笑）。

△△△
大A 創也は頭は良いがコミュニケーション力
に難があり、内人は成績は今一つだが生きる力
がある。タイプが違う2人のコンビがいい。内
藤君、内人君と変わっていく。先の巻では呼
び捨てになるのかなと想像しながら読んだ。

△△△
大B 内人のサバイバル力と創也の頭の良さが
この本の魅力だが、卓也さんに対する創也のや
り方はひとくないか。卓也さんが守つてくれる
からこそ2人は羽目をはずせる。内人のおばあ
さんはいつたい何者なのだろう。

△△△
中C君のブラウン管にひつかつたという話
が面白かった。昔は電話はダイヤルだし、テレ
ビはチャンネルをガチャガチャ回していた。

△△△
中A びわの木文庫の墨電話で遊んだ。
△△△
大C 内人は創也をリスクペクトしているが、危
険な状況から脱出できるのは内人の準備力と知
恵もとつさにいろんなものを拾い、それを使い
こなすところがすごい。おばあちゃんの知恵や
教えもとても含蓄がある。

中B シリーズを通しておばあちゃん本人が登場する」とはない。常に回想シーンだ。。。△

がある。僕も19巻まで読み進められそう。

大D 30歳になる娘が中学の頃、はやみねかおるを勧めてくれて「清志郎」シリーズは読んだが、トム&ソーヤは初めて。なぜ下水道に潜るのかなど、内人の視点で謎解きをするのがこの本の特徴。本の冒頭、ミシシッピ川がなくても(マーク・トウェインの)トム・ソーヤーになれる、という一文があるように、彼らはまさにまちの中で冒険をしている。

大E たしかに冒険はどうでもできると感じた。いつも満点の創也が数学のテストで90点だったとき、「新しい解き方を考えていたから」という箇所がある。著者は小学校の先生なので、子どもたちにいろんな解き方を考えるプロセスこそが大事だということを伝えたかったのでは。

中A 新しい解き方を考えるという点でいえば、『トリブル・ゼロの算数事件簿』(ボプラ社)はおすすめ。

小B 内人がなんでも拾うのは面白い。最初のほうで創也が風船に仕掛けているのが水ではなくてタパスコだったのは嫌な感じがした。

中A 前に中B君から「木と水で、岩を割れるか」と問われ、「分からないよ」と言つたら、こ

◇報告 びわの木文庫案内ツアーリポート

「文庫」ってどれくらいの人が知っているのかな? どれくらいの年代の人まで実体験で文庫に行つたことがあるのかな? なんて思う。昨今ですが、熊本に立派な文庫があるのを「存知でしょうか? それは「びわの木文庫」です。

熊本子どもの本の研究会の事務所がある横田さんの「自宅の2階にその文庫があります。私が初めて研究会をアボなし訪問した時、幸子さんに文庫を案内して頂いたのがお付き合いの始まりです。その頃は、近所の小学生が放課後に寄つたり、昔ひわの木文庫で本を読んでいました。お母さん達が子どもを連れて来てくれたりしていました。それも、幸子さんが「くくなられた後は、文庫を開けておくことが難しく訪れる子どもが全くいない状態がしばらく続きました。さて、去年の夏ごろから始めた研究会の「子どもと大人の読書会」に参加してくれている小学3年生と中学1年生を「びわの木文庫案内ツアーリポート」にお誘い、1月22日、小学生2人、中学生3人、お母さん一人でツアーリポートを開催しました。研究会からは、横田真さん、恵美さん、興津の3名が参加しました。びわの木文庫には、古典からライトノベルまで、絵本から児童書までが

何千冊も置いてあるので、子ども達も興奮気味に本を次から次に取り出し、椅子に座って読み、

以前読んだ本を他の子に紹介したり、真さんと本について話をしたり、真さんも色々な本を子ども達に紹介していました。そんな子ども達の姿が、文庫には本当に似合っているのを実感し、そして、文庫も大喜びなのを感じました。

子供たちがどんな本を借りたのかの一例です

が、以下のようなものです。中学生は『獣の奏者』『ルパン対ホームズ』『1Q84』『本好きの下剋上』『宇宙と宇宙をつなぐ数学』他多数。小学生は『イヌコロなんて呼ばないで』『へそまがり昔話』『消えたモートンとんだ大それだく』『オオカミくんのホットケーキ』他多数。一人で10冊近く借りる子もいました。

その後、皆でお茶をして楽しくおしゃべりをして、解散となりました。とっても楽しい半日で、参加者のお母さん達からも日々に「楽しんだようですね、感謝です」というメールをその後頂いて、一人のお母さんが「自分が見たことないジャンルの本に触れることが出来、とても楽しかったと大満足で帰ってきました。もっと視野を広げて色々な本をこれから読んでみたいと言っています」と書いてください、そうしたよね、

それが本の世界なんだよね。と思つた私でした。



◇報告 第6回研究会活動検討会

日 時 2月12日 10時～11時半
場 所 オンライン（ZOOM）
参 加 者 4人



●2023年度事業計画案

うに定款を見直すことについて、熊本市市民活動支援センター・あいばーとに相談する。
動支援センター・あいばーとに相談する。
●やるさと納税経由の支援について
本研究会は昨年8月に熊本県のふるさと納税制度「ふるさとくまやと応援寄附金」のNPO等支援の対象団体として登録されました。

2022年中に当研究会を指定しての寄付金が9万8000円あり、規定により半額の4万9000円が2023年度に県から研究会に交付されるようになりました。40周年記念公開講座の費用などに活用させていただきます。

びわの木文庫の本の充実などを含めて、研究会の活動の幅をひろげていくためには、ふるさと納税制度を通した支援が心強い助けとなります。当研究会の活動にご関心を持っていて下さいに於ける、図書管理ソフトを使って所蔵本の登録作業を進める。将来的にはリスト公開も検討。

●理事会
3月5日(日)にオンライン併用で開催する。
●次回総会の日程等
例年通り6月後半に開催する。総会開催直後に選任された新理事での理事会が開催できるよ

<https://kodomonohon.org/2022/08/17/dantaisitei/>

(横田 真)

4月～5月の講座・会合の案内

○第1回研究会活動検討会（オンライン）

・日時 4月9日（日）10時～12時

研究会活動の企画や意見交換をします。参加

希望の方は左記メールアドレス宛に4月7日までにお申し込みください。

メール zoom(a) kodomonohon.org

（②を①に変えてアドレスにして下さい）

○開講講座

・日時 4月26日（水）10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会室

今年度の講座と研究会活動を紹介します。

○さへまゆみーさんの作品を読む―児童書

・日時 5月17日（水）10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会室（予定）

・課題本などはホームページを確認願います。

★参加には事前申し込みが必要です。講座名

参加者のお名前、連絡先を明記の上、メールか

FAXでお申し込みください。場所 スケジュ

ールについては、お越しになる前に必ずホームページで確認ください。

メール kouza(a) kodomonohon.org

FAX 096-3882-5090

本はともだちー



昨年12月以来、熊本に戻つてくる頻度を増やすことができるようにになりました。そこで、こ

れまで思いながらも手をつけることができない「びわの木文庫」の整備に本格的に取り組む」としました。昨年8月に始まった「子どもと大人の読書会」で、小中学生との接点ができた」とも、良いきっかけでした。

子ども達のびわの木文庫訪問が1月22日と決まりてます。考えたのは、私自身が彼らに読んでわざわざ本を整備することでした。そこそこ数年、この欄で紹介した中から、小中学生でも読めるのではと思われる『アラルエン戦記』（ジョン・フランガン）、『西の善き魔女』（荻原規子）、『神々と戦士たち』（ミシェル・ペイヴァー）、『風の守り手』（キャサリン・ドイル）の各シリーズを揃え、スースケースに詰め込んで熊本に持ち帰りました。びわの木文庫に並べて、子ども達の来訪を待ち受けましたといひ、幸いなことに、『アラルエン戦記』と『神々と戦士たち』の1冊目は借りてくれる中学生がいました。今後読み進めてくれることを期待しています。自分が面白いと思った本に共感してくれると嬉しいですね。國立がんの目

論見にビシソと反応していただいたのは、保護者として彼らを連れてきたお母さんでした。「私が2度読みました本です」と『図書館の魔女』（高田大介）を紹介したといひ、2月中に大

部の上下2巻を読み破していただき、3月5日には、続編の『図書館の魔女 鳥の伝説』を借りていかれました。こういうやりとりが本好きにはたまらないです。2023年度からは、びわ

の木文庫の公開日をできるだけ増やし、子どもたちを始めとして、より多くの方々と本をきっかけにしたおはなしができるよう思っています。子ども達は本を読ぶだけでなく、私が3個お

手玉を実演してみせると、小中学生入り混じって、取り合うように練習していました。子ども達の笑い声がこの家の中に響くのは久々で、明るい気持ちになりました。（横田 真）



（横田 真）

■編集＝金子・上林・横田 『イラスト』 安田

特定非営利活動法人
熊本子どもとの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

FAX 096(3882)5090